

# 図書紹介

茂木 弘道（賛助会員）著

## 『大東亜戦争 日本は

「勝利の方程式」を持つていた

実際のシミュレーションで証明  
する日本の必勝戦略

大東 信祐 陸自57

著者の茂木氏は諸外国に対する日本側の情報発信が少ないことを憂い「史実を世界に発信する会」の主要メンバーとして「慰安婦問題」「強制連行朝鮮人問題」「南京事件」等について日本側の立場を英文で世界に発信している。

大東亜戦争に関する評論としては劈頭の「真珠湾攻撃」「ミッドウエー海戦」「ガダルカナルの攻防」「インパール作戦」「比島防衛戦」等作戦・戦闘のレベルについての戦記、書物は多いが「大東亜戦争」の意義、戦略等についての論議が少ないように著者は感じている。

一般には「日本は世界征服を目指して侵略戦争を起こした」と云う極端な議論すら唱える者があるが、これらの極論に対しても敢えて反論をする声は報道されない状態である。

日本は昭和16年11月15日の大本営政府連絡会議で「対米英蘭蒋戦争終末促進に関する腹案」を決定した。

この文書は事務当局の作った単な

る「腹案」であるとして軽く見られる向きがあるが、これは戦争指導要綱に代わる「戦争指導計画」と云うべきものであった。この腹案の背景には「秋丸機関」による経済的な検討の結果も加味されている。

ただ、当時の国際情勢、欧州の戦局との関係から同盟国との調整を図ることができなかったため、「腹案」とされたものである。この文書では方針

一 速やかに極東における米英蘭の根拠を覆滅して自存自衛を確立すると共に、更に積極的措置に依り蒋政権の屈服を促進し、独伊と提携して先ず英の屈服を図り、米の継戦意思を喪失せしむるに勉む

二 極力戦争相手の拡大を防止し第三国の利導に勉む

となつてゐる、然しながら開戦当初の資源地帯の占領以後の日本の戦力運用は「重要資源地域並主要交通線を確保して、長期自給自足の態勢を整える」と云う方針に反し、逐次戦線は拡大し不利な戦闘を招き、同盟国である独・伊との連携も不調のまま逐次劣勢に追い込まれた。著者はこの間における戦争指導を分析し、日本には勝利のチャンスがあったと分析している。

171014 豊島区池袋3-9-23

ハート出版刊

03-3590-6077

価格 1500+税